

正誤表

このたびは、弊社刊『絵で楽しむ 日本人として知っておきたい二十四節気と七十二候』（第1刷）の記述につき、誤りがありました。お詫びとともに訂正させていただきます。

ページ	誤	正
p.144（囲み内見出し）	ご先祖の乗り物 お盆の「精霊馬」	台風の襲来が多い 農家の厄日
p.165（A 解説部分 4 行目）	戦前	一九四七年
p.206（A 解説部分 1～3 行目）	ヤブコウジ科の植物で、冬になると千両は葉の上に、万両は葉の下に真っ赤な実が熟します。	冬になると、千両は葉の上に、万両は葉の下に真っ赤な実が熟す植物です。

ページ	誤	正
p.220～221（解説文）	一年で最も昼が短く、夜が長い日。ここから徐々に日脚が長くなっていきます。古代中国では、冬至を一年の始まりとする時代もありました。冬至は太陽の力が最も弱い日。災厄に見舞われやすいと考えた人々は、疫病を防ぐとされる小豆粥を食べたり、強い香りが邪気を祓うという柚子湯に入って無病息災を祈りました。ほかにも七種の「ん」のつく食品「南京（南瓜）、人参、金柑、蓮根、银杏、寒天、うどん」を食べると運がつくといわれています。	冬の最後の節気となる「大寒」。字のごとく、一年で最も寒さが厳しい時季です。大寒の終わりの日が「節分」。もともと節分は季節の分かれ目を意味するため、一年に四回ありました。しかし、「立春」を一年の始まりとしていたころは、現在の節分の日が大晦日にあたるため、邪気を祓って幸福を願う年越しの行事が行われました。豆撒きも、もともと邪気を祓う大晦日の儀式。豆をまいた後に、数え年で歳の数だけ豆を食べる風習もその名残です。

以上